

自律利用を目指した、 発達段階に応じた段階的利用の考え方について



子どもたちのインターネット利用について考える研究会

事務局 佐川 英美



子どもたちのインターネット利用について考える研究会について

子どもたちのインターネット利用について考える研究会(子どもネット研)は、子どもたちのインターネット利用をより豊かで安全なものにすることを目的として2008年に設立された研究組織です。

さまざまな課題について調査研究を行い、保護者・行政・関連事業者に向け整理された情報を提供しています。

子どものインターネット利用が既に一般化した状況下では、携帯を取り上げるような趣旨での法規制で事態の改善をはかるのは現実的ではないと考え、保護者やユーザーだけでなく、事業者や専門家も一体となって取り組むことが必要なのではないかと感じ、2008年の4月に「子どもネット研」を設立しました。子どもたちを守るためには、保護者が問題を理解することが重要との考えから、設立以来一貫して、保護者支援を行っています。

子どものインターネット利用に関する問題は、「これをすれば大丈夫」という根本的な解決策は存在しません。だからこそ、一番重要なのは子どもとの対話です。親子の信頼関係の上で、家庭内でルールをつくり、何かあったら相談するよう日ごろから声がけをするなど、日々積み重ねが一番の防御策と考え、対話を行う上での声がけのヒントを教材として無償提供しています。



子どもたちのインターネット利用について考える研究会について (子どもネット研) 体制

座長:坂元 章(さかもと・あきら)

お茶の水女子大学 理事 副学長 大学院人間文化創成科学研究科 教授
専門は社会心理学、情報教育。

座長代理:笹井宏益(ささい・ひろみ)

玉川大学学術研究所特任教授 / 文部科学省国立教育政策研究所フェロー
専門は社会教育学、生涯学習政策論。

委員:新谷 珠恵(しんたに・たまえ)

一般社団法人 東京都小学校PTA協議会相談役 / 東京都教育研究連盟副会長(全日教連)
警察庁IHC運営委員 / 元JST日本科学振興機構RISTEX領域AD、PJガバナンスボード

委員:玉田和恵(たまだ・かずえ)

江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 情報文化学科 教授 / 情報教育研究所長
専門は情報教育、教育工学。

委員:七海 陽(ななみ・よう)

相模女子大学 学芸学部 子ども教育学科 准教授

子どもを護る保護者を支援するために



事務局

運営協力企業

LINEヤフー

NetSTAI

ALSI

PTW
Pole To Win

主な提言 育てなければならない「2つの能力」と「4つの段階」 子どもたちの「段階的な」ネットデビュー 「段階的利用モデル」の提唱

発達段階に応じた環境で、段階的な利活用を通して必要な力を身につけていく

子どもたちがインターネットを安全に活用できるようになるまでには、想定されるリスクを回避するだけでなく、知識の習得やさまざまな経験が欠かせません。

「段階的利用」モデルは、インターネットデビューの過程を大きく4ステップに区分し、利用できる範囲や求められる力を「能力(スキル)」「知識」「倫理」として、具体的に整理することで、保護者自身の学習や判断を支援しようとするものです。

Point

「子どもの発達」がステップアップの目安

同じ学齢の子どもでも、必要なスキルの発達状況異なります。

本モデルでは保護者が「自分の子どもがどの段階なのか」を各段階の「必要な力」で挙げられている項目について、それができかどうかを判定することで、子どもの発達段階にあわせた理想的な利用の仕方や次の段階に進むための必要な指導が分かるようになっています。

ほとんどの保護者が経験する“自転車の練習”に例えると・・・

理想的なネットデビューと発達段階にあわせた理想的な利用イメージ

Phase1

保護者とともに利用開始

インターネット利用



保護者の考えるべきポイント

- 安全な利用環境への配慮
 - ・保護者が付き添う  
 - ・安全に配慮された環境
 - フィルタリングやペアレンタルコントロールの利用 
 - 車がこない平地で練習 
- 発達段階に応じた体験を通した学びの促進
 - こども向けサービスの利用 
 - 三輪車、補助輪の利用 

自転車練習



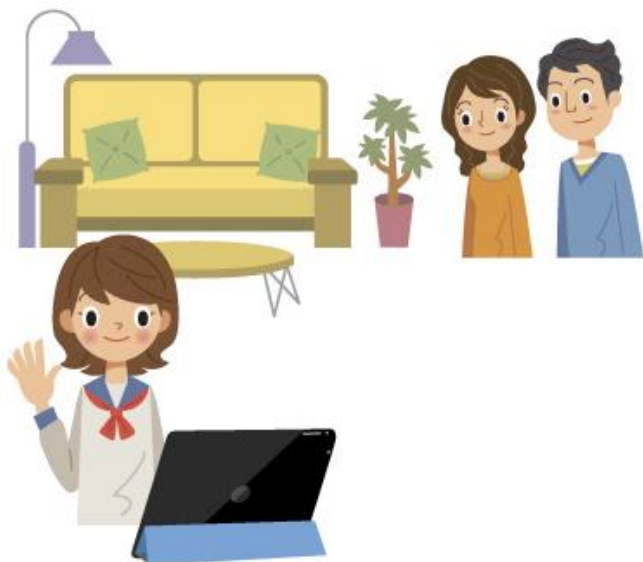
ほとんどの保護者が経験する“自転車の練習”に例えると…

理想的なネットデビューと発達段階にあわせた理想的な利用イメージ

Phase2

制限利用環境下での利用

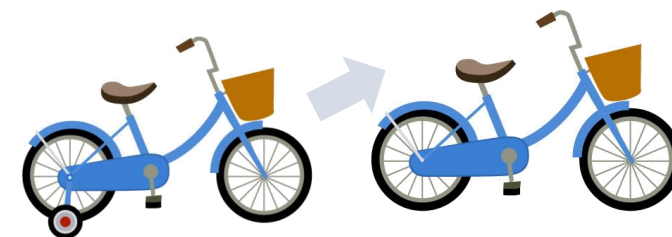
インターネット利用



保護者の考えるべきポイント

- 安全な利用環境への配慮
 - ・保護者の目の届く範囲、決めたルールの中で利用  
 - 利用時間、場所、利用用途のルール化
- 発達段階に応じた体験を通した学び
 - ・利用サービスの管理
 - アプリコントロールの利用 
 - ・補助機能の利用  
 - ・必要な能力を身につけるための支援
 - 「能力(スキル)」「知識」「倫理」  
 - ・安全な環境下での軽度な失敗の経験
 - 擦り傷程度の失敗  

自転車練習



ほとんどの保護者が経験する“自転車の練習”に例えると・・・

理想的なネットデビューと発達段階にあわせた理想的な利用イメージ

Phase3

自律に向けた段階的利用解禁

保護者の考えるべきポイント

インターネット利用



- 安全な利用環境への配慮
 - ・大人としての自律した利用の準備
→ルールやリスク回避方法を親子で議論 📱 🚲
- 発達段階に応じた体験を通した学び
 - ・道具として正しく利用できるスキルの習得
→被害者にも加害者にもならないため 📱 🚲
 - ・自ら考え、適切な利用をコントロール
→自分を律する力の育成 📱 🚲

自転車練習



使いこなせる大人になるために必要な力を育むには こどもの能力の見極めは身近な体験から



STEP 2

家族にメッセージを送る



人の失敗を笑わない、
人のせいにしない



STEP 1



知らない人から
話かけられても教えない

危険なことに会ったことを
親に報告する



困ったときに
適切な人に相談できる



STEP 3

聞いた話をうのみにせず、
客観的に判断する



能力(スキル)・知識・倫理

自律した判断、利用ができるように
バランスよく育てる



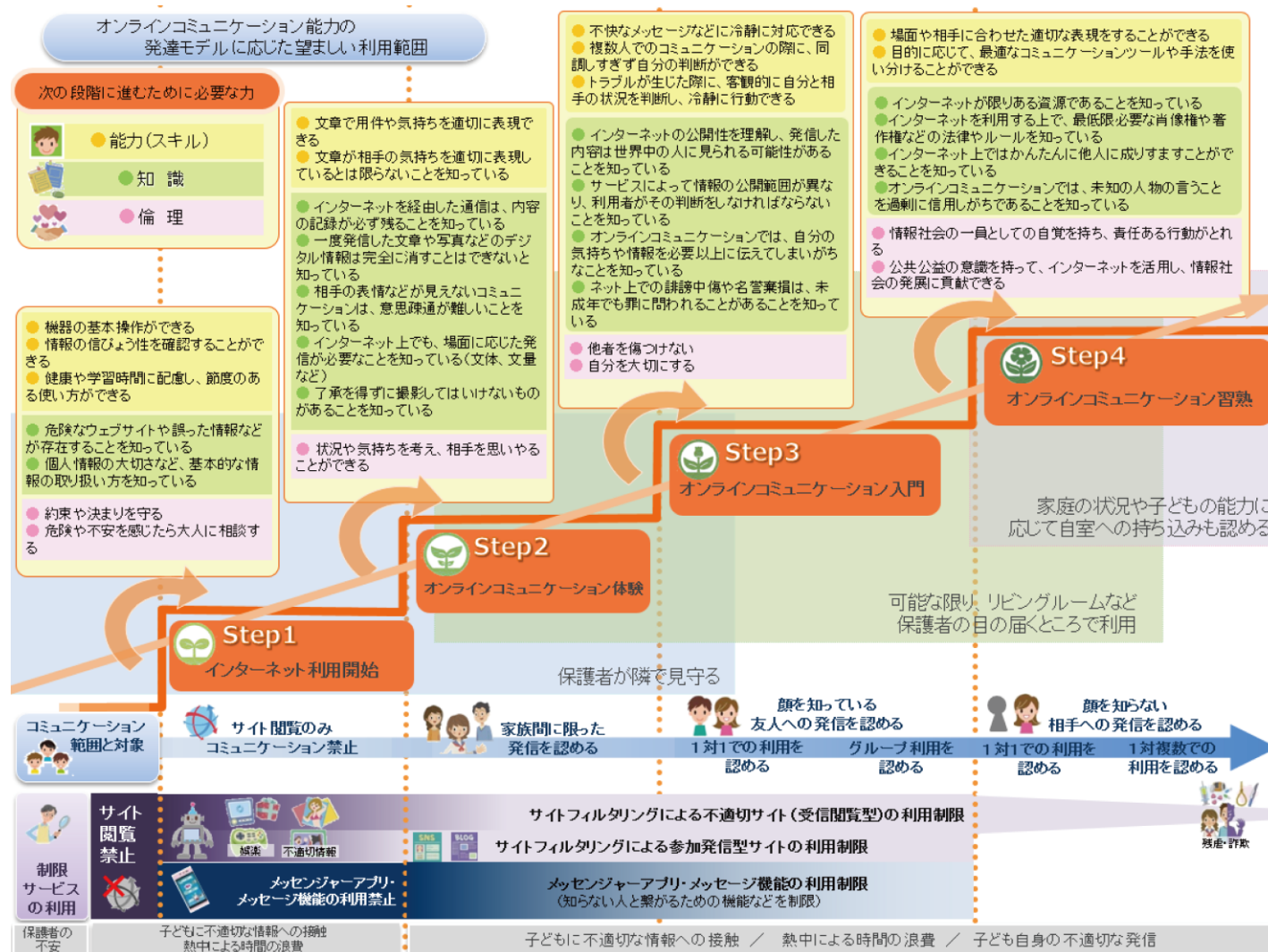
自分で調べ、計画を立て
実行できる



STEP 4

能力を見極める4つの段階

オンラインコミュニケーションに関する段階的利用モデル



「オンラインコミュニケーション能力のモデル」では、機器やサービス種別ではなく、コミュニケーション相手によって求められる力が異なる点に着目。

オンラインコミュニケーション能力を支える要素を「能力(スキル)」「知識」「倫理」に区分し、コミュニケーションを取る相手別に「求められる力」を整理・具体化。



詳細は、以下URLやQRコードからをご覧ください
https://www.child-safenet.jp/material/guide06_model/

主な提言

「スマホ育児」で越えてはいけない一線をより具体的に 乳幼児とスマホ保護者のためのセルフチェック

低年齢の子どもとインターネット

2017年3月に公開した「未就学児の情報機器利用保護者向けセルフチェックリスト(3歳から6歳)」を元に、スマホ育児の適切さをスマートフォンで手軽に自己診断できるウェブサイトを公開しました。

「機器利用の時間や場面」「情報の内容と保護者の関わり方」「機器の与え方」「保護者自身の知識や使い方」の4領域に関する計16問の質問に答えることで、現時点での各家庭の取り組みの適切さがかんたんに自己診断できます。研修会などでもご活用ください。

Point

少しでも望ましい利用となるように……

多くの保護者が何らかの不安を感じながらも、いわゆる「スマホ育児」とは無縁ではいられない状況にあることがわかりました。それらの結果を受け、未就学児の情報機器利用に関し、保護者の判断や学習に役立つ、より具体的なチェックリストにまとめ、保護者向け研修での利用を想定し、保護者向けセルフチェックシートの要点をまとめて作成しました。利用状況を振り返るためにご利用ください。

乳幼児とスマホ

保護者のためのセルフチェック



<https://www.child-safenet.jp/selfcheck/>

こどもたちと一緒に、大人も学んでいきましょう

- 成長段階に見合った「必要経験」と「知識の習得」が必要
- インターネットと上手に付き合える大人になることがゴール

